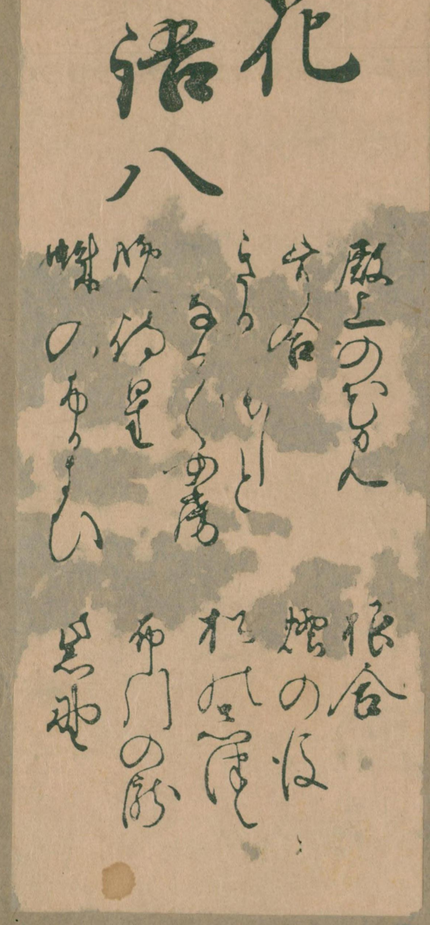
857
20

栄花物語八



国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20

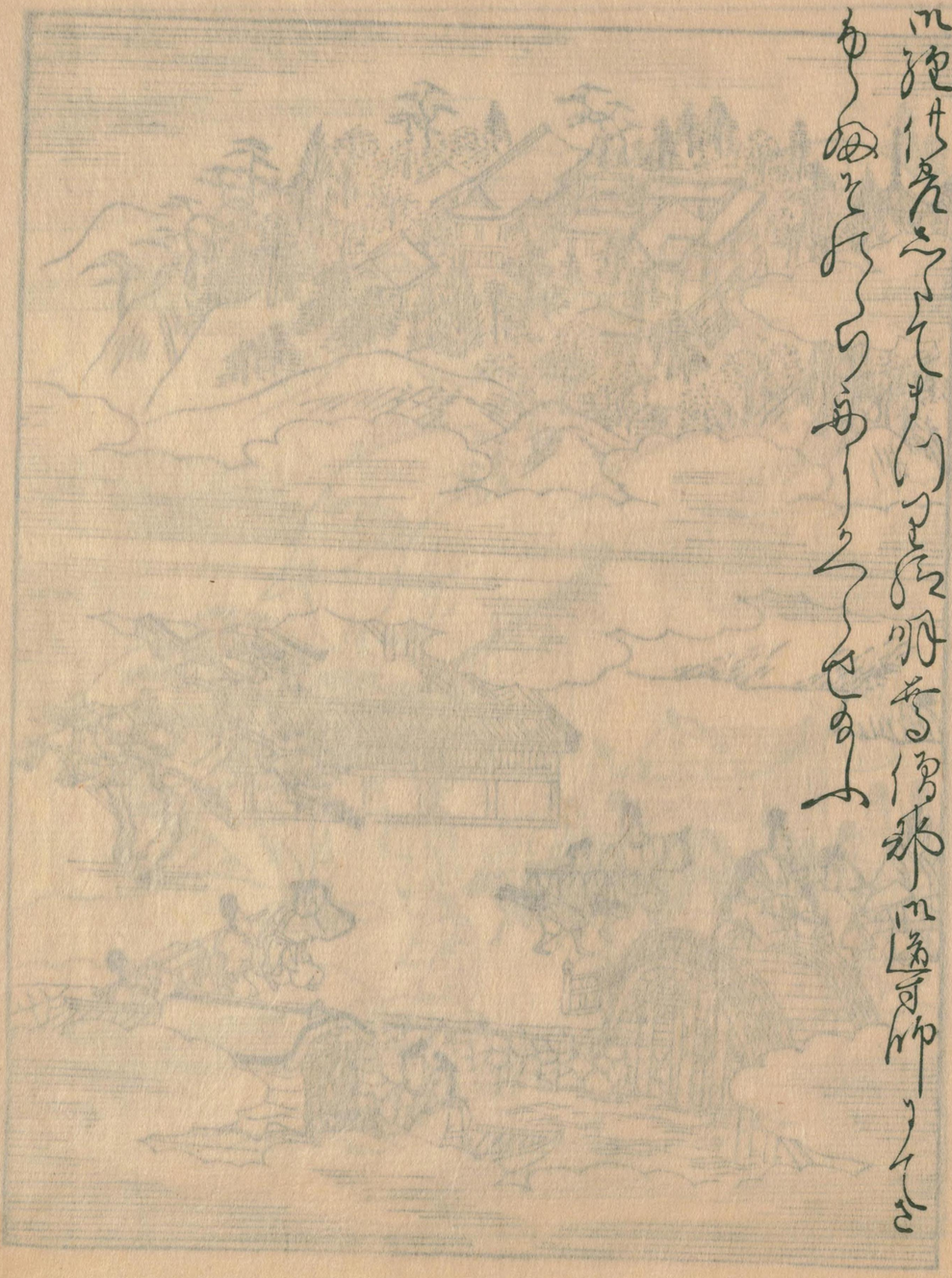
ガラス使用

栄花物語八

殿上乃むかん

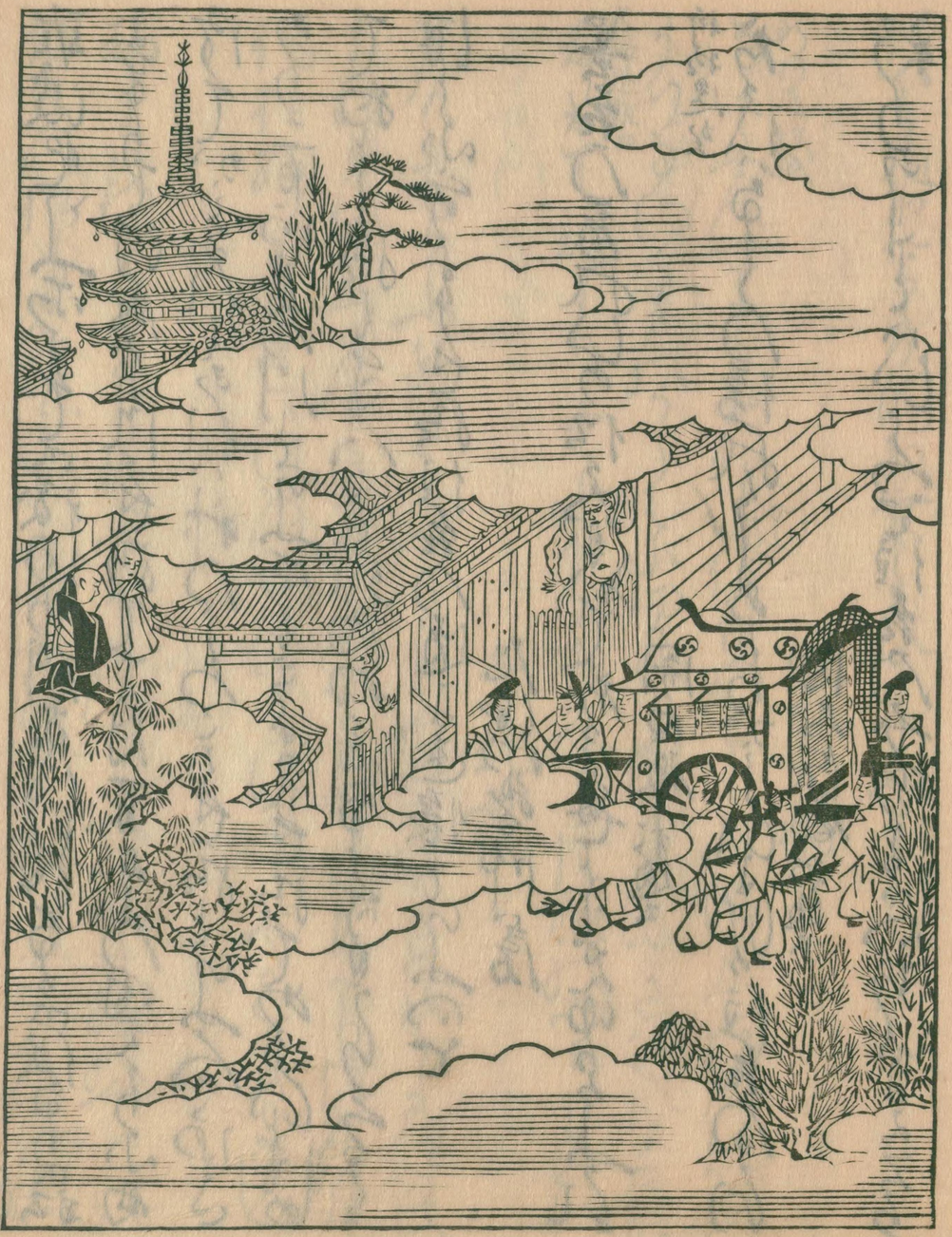
長元四年九月廿五日女院（上東門）住吉石清水に詣てさせ
給ひしにまさゆゝ殿人ハかひくしきまりそ心日けゐ
年乃時ありふかさせ給さ程にかんてくしあとし
くてさゆゝ守ひとゆゝ殿ハ人ゝうしくて
ひとくなくかりほとふ院乃人ゝ済政郎に行住朝に
章任朝臣花臣惟任定任能通やすのりはしめなりの
とけらしとけなりとゞまひしなるゝ殿もいかゝくさ
ゆゝ殿をしもくさハゆさまそ行うそ給ひ殿
上人隆臣乃以中将雅輔の右中弁実基乃中将

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20

ガラス使用



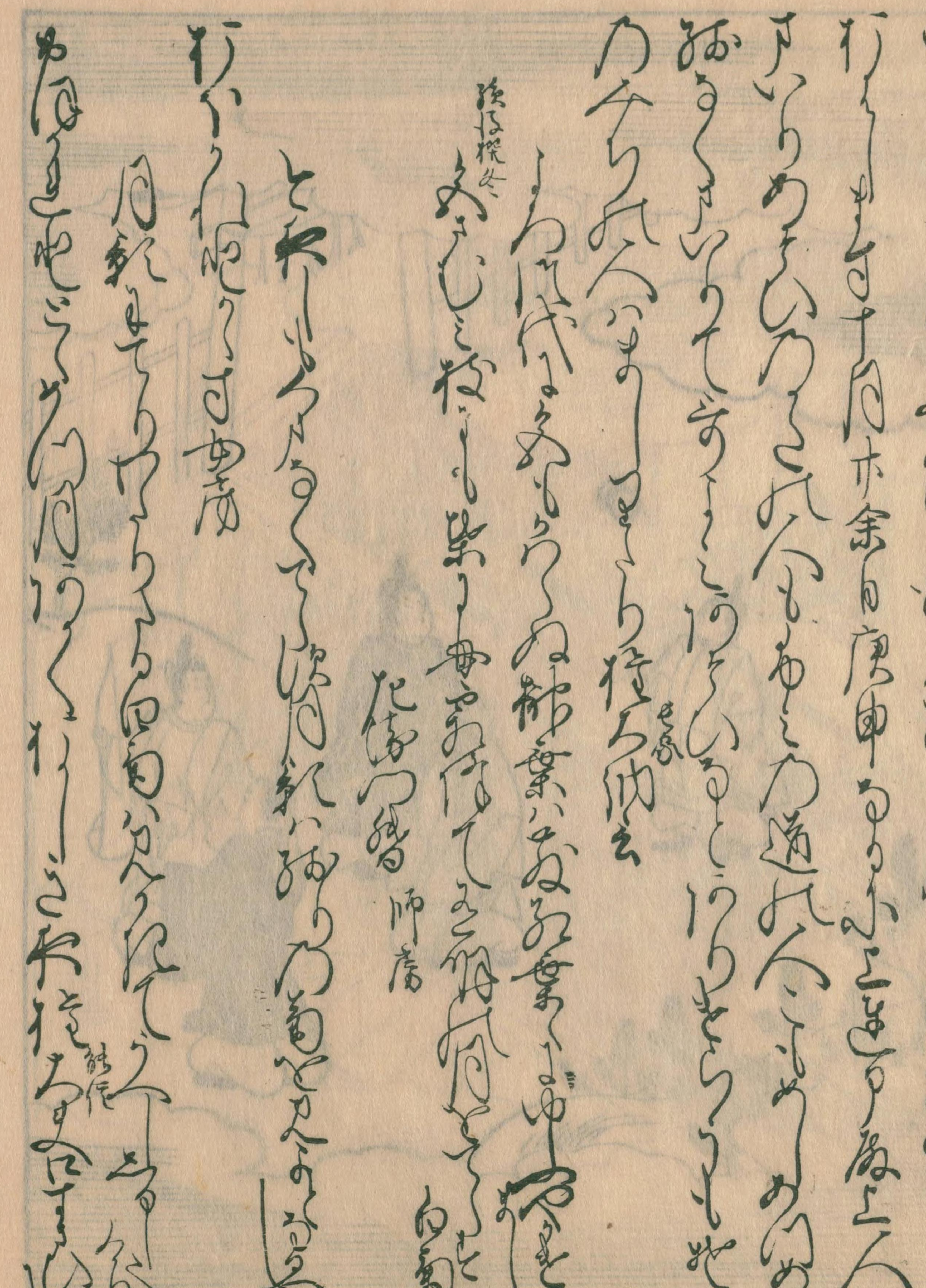
国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』 請求記号 857-20

ガラス使用

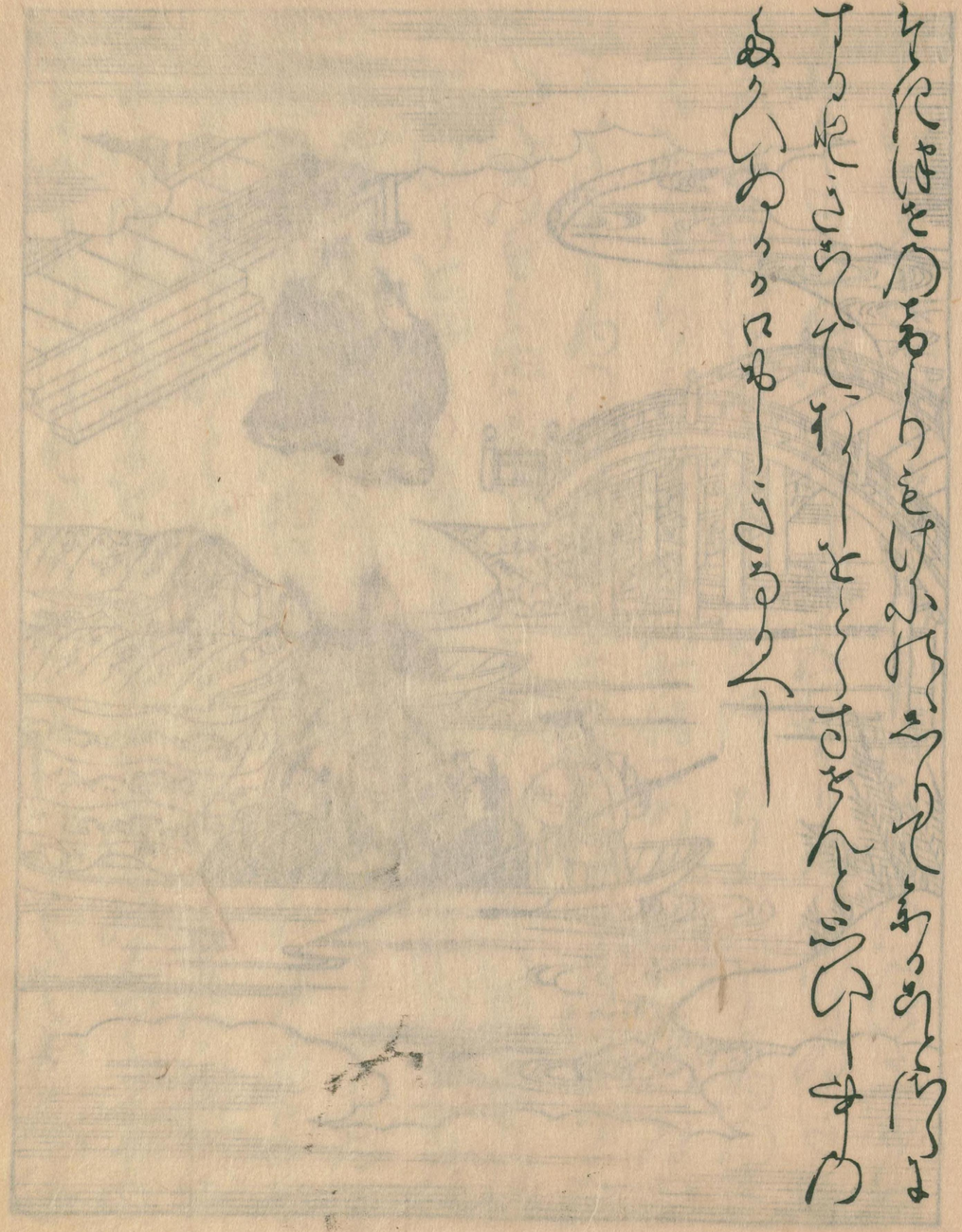


○右同年 いにしへ十月に斎院より 選子 中宮威子 贈りけるこのまへはむ六日汁
にしますす十月よ余日庚申なりけるに上達部殿上人
まいりあつまりて御あそびなどありて道ある人ゝはみなめ
御うたよみてさふらふにいとうつくしけれどもやちよ
のたちある人ゝはまかりて侍らぬ 弁乳母
しらぬ代をかぞふる紅葉はおなじ葉はよ中やもを
ならしむる桜花しも紫の母おはしてふ月影をもとむ 白菊
花よりも 師房
とおりさとりてて月影は神代のかともかみのほど
おもひしけれぞす女房
月影もかへらむ白菊のうへをおもへりけれ
かたのもこそ月ゆくさきもしるきを結べ 経信

行さきのことにはふえてなれし
このよへし女房
秋の夜は月もみちしめるのなれ
ましのとものなかにとふしもおたまはぬ花
かそくてを花しるのなさを待るしけるやまとを

歌合

長元八年五月廿日宇治殿 頼通公 歌合せさせ給ふ左の殿上人
人には方は花人は経輔済政資業良頼東宮亮
良経乃藤行経の中将中の大進義通頼宗中将
経長の弁経成の中納言行も乃俊家花資俊憲方経
実経花人は俊経季通貞章也右方は実経兼房中



国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20

ガラス使用

後松遠交
五月雨にこゝろの見えたれば
右
東宮学士義忠朝臣
五月雨の空をなかむ夜の
三番左　池
武部大輔資業朝臣
夜をへてすむつきぶとを見せつゝ池のみ海をなす
右
廿納言経家
後松遠交
年をへてすむつきぶ宿る
池の水をへまつ
をたるまつしとて右勝
四番　左　菖蒲
左馬良経朝臣
あやめ草をへてそひく海にも刈よとのわたり
右
東宮大夫粉家
青よりにさをぬ雨はあやめ草深く淀の水に
ゆるり

五番　左勝　瞿麦
四條大納言定輔
後松遠交
とゝなるゝ雨の夜の夜庭はかしまとなり
右
赤染
庭の面はかしの御をさく雨は花とゝなるゝ雨のむしとて
花なるゝとりしまつしとて右まけぬ
六番　左勝　郭公
義忠朝臣
後松遠交
なかぬ夜を明る毎にまつ時るまつとてやもたゝぬ
右
赤染
夜をすてゝ鳴はりの雨を時るみともなるとて
七番　左勝　蛍火
左馬良経朝臣
後松遠交
江水にしかるゝ星の光はりの雨にゆるゝ夜の雲也
右
赤染

あれまでにかへさ可とも詠しせにめそひ行ふに菴行乃
よ安のほとも此ニ行しさふ尼方ゝりわさとなりし
くて沈ぬるんれかいすりうゝ見れ見はやりなとしてゝ彼
をもさいてせたり帰釈にハ懐来ひとゝ見かけせさせ給
次日上達部乃おなし(ほとふ内大臣殿大納言)(教通公)(松宗 独信 安成)へ
るをしせ給ひ(ほれ)まるれ此こよひハ常よりも語り
てゝ行しく見ゆるふおとのみさ海ちよをもそへ申ほし
りしも乃明りしそあ守りなりしか
さ為ハ信し此なるく安房

長元九年四月十七日後一条院崩御同年九月六日中宮威子崩
かくて(威子母倫子)鶴司殿にハ行さへいこしうめれ給ひ給ひ
さこのをみるゝ心地ゆ風も力ましそめれなり

お我をやうくれくまるりきれ者もよつりゆき為
乃はまてゝ行るもれとのれ七条の后(温子)へまうせ給
御ゝ行りあまて乃ミ御る此いせかいひたるほとの
ちをかたりやみるん様亮ミの内ふにおとやうに雅
るとよそて詠けるゝし此をめられるふいひ出
めのまへまくめれ果ないせ乃海をよそ乃る此さと
行きいけるゝ邪 無房
いまし(乃ゆれ住るんいをれ海もうるれささハ
めしとれ申し(ほおのいこさやをとそてお羽弁
いはくしさかきり此見しいこさやもそ(ハ)を
こゝ守るりきれ斉俊乃世弁命婦
いかもをん清士乃焼火も清そてくるゝ此ゆりいよ

新古今長保

[illegible]

根合

仁治泉院

内にはゐのもとせなきせのたにの資保の中納言の子の經家の中ゐのくにのかみにて
なりたゝかへつゝ世にてえもいはぬ女房のうせにを
あつめ給ひしにこゝにいちはやまりつゝひさかたの一文
三人の根をもとゝりて蓋うちにさけそくるまの所
所々にしつらひ侍し中宮の女房の寛子れ通公女
里中文の女房の懐紙にあれとのほしきを
まゐらせんとこれをりて書てしたりぬれば
うつさしもの所の衣めしつゝ
[illegible]

八ノ十九

[illegible]
と作りくらべとの所にしたしきまゝにまゐりか
[illegible]

永萬六年五月の日後白河上歌合

一番　左持　嘉蔵　左馬頭源經房卿

万代にかはらぬ色は五月雨の空にすみ
右　廿納言源信房

[illegible]

二番　左持　部立　按左中弁藤原資仲朝臣

部立[illegible]

右　左近中將源親房

[illegible]

三番　左勝　早苗

五月雨に目はかれぬなり里をとは山田もさるべくとりもてはは

右　廿納言源行房

さとゝとの山田もしろまなりけりそこはやまの苗しろ

四番　左持　祝　詩に補なし原本無題

姫乃君ぬる月日乃さやうもいろ万代とある雲の上の秋

右　右中将源資綱朝臣

行隆卿今案　さ月山枝ちしまつ松乃葉ハ君ゝ千とせ松すまて給

五番　左勝　恋　お横

左持遠　恋四　恨こそ思ひはてぬ袖にふれぬ人の名こそ惜

右　左近少将源雅俊朝臣

下もゆるなけきをそしにふれもしらせゆるしけ袖乃上の煙は　大内記藤原朝臣

藏人修理亮藤原惟経

煙乃後

拾遺云　平等院

宮の内ハ宇治の平等院　ゆめてさくしらせてこゝろ遠

さす網代乃ほとにふよりて　そこやうらに八海せさせ

海ほしくれくめす宇治にてハ例めしなとせ

ミれくしそちまくれ　康平八年九月　才女自是

松乃心ほそ

延久五年

二月廿日天王寺にまうでさせ給し院をハ一院とそ

人ゝ申けれ院と家院ともいひけり　陽明門　女院も一所　緣子　おはします

てさせ給ひけれとも遠所にて人ゝ松かくもさいてさせ

給ふすじにましくゆめす人ゝそをハあそひ乃

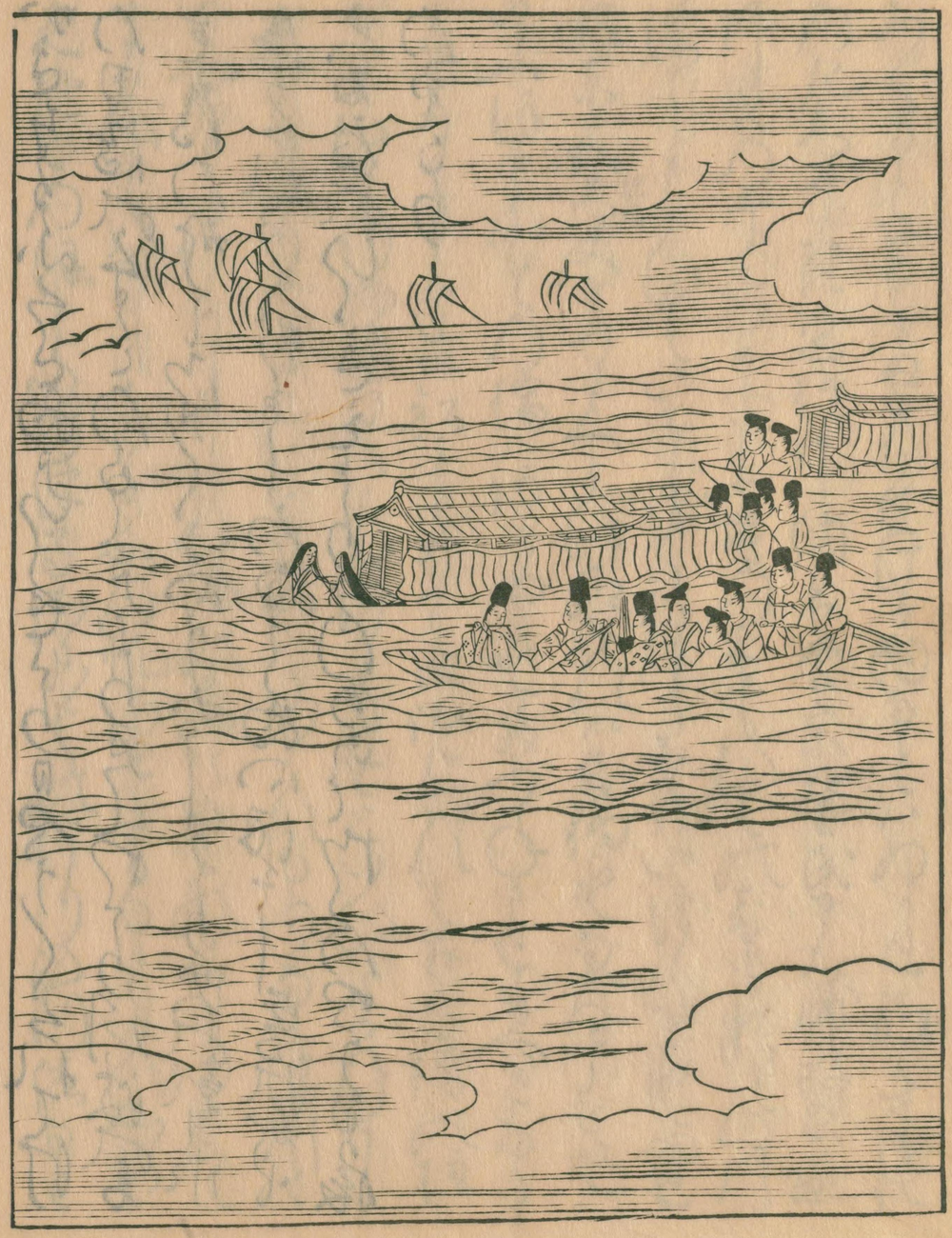
国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20　ガラス使用

ことの人ことをぬてたりしましけるまゝ女院の車
にはふ一院そのうちは一ふ文かたします女房車あらつ
つ女院の御ハ様ともふとはうのうちをの一院ハ様
まゝ山あき二ふ文のハやうあるかたりいひ一の車ハ出
二の車ハうすくまりひたりたりします道ハ御也
なとハ此たりしハ様まいりてさせ給て云ふしたり
ゆりて内（白河院）の御使ハ中将師（師房四男）忠の君さいりをりに御ゆう
けれつそうへりさいりぬ一ふ文うへハ祐りのりさせ
きよし口させ給へハ舞人ハ乗ひて乃りさせ給ふ所の
御也まて御後ゆり舞人ハ西なとゝ御ませまてか
色させ給ひ四位の少将家賢侍従道良右と房佐殿
なとゝ御ゆるゝ乃御供まさ給ふ御へさまてとゝめさせ

給ふ十一日ゆへハ給ふれかり装束まて立ほしとゝこゝ
もぬ御ゆちはたりしく御読す上達ともふれかり装束
まてさあらひ給ふ様本のほ此いふ所りくさせ給
御読とれ住ふ出ふれ船ともふれ船ともしめさせけるまふさせ
けるしをりふれ船ともまをりぬ御あ乃ふ所さハ達
ゆくまゝをこけまふはしたりいとゝつゝ人ハ御ゆら
ゆらりまほうまゝ御ゆ毎さ海年ゝ乃なるまゝもせ御ゆ
つゝをはしひそ給なくふはしたりけの女房ハさぬも
なるゝいつなり上達ものハ御船まもさあらひ給上達ア
乃ふまもれりまゝり後上人ハ後上乃ふりまそめそひ
くるゝ十二日乃辰ハ御ゆもりふ御船にてくるせまふ
ほとふ江口ハあそひあそこふまりまりめいをり

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20　　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20

ガラス使用

廿二日日うらくてりて夜あれいきつくりたる御ふ
に車ともたくれに船ましてあこにかくまにて
きたる西ともたりやすく西まに景台まいて若
寶（教通云）白殿くれる井乃いくしうりきに柳乃る岡を
里たりしとそ池にすしくしたひ心なるしと命
くりましてあとへ入れ裝束いふたるしに殺けりて
そのうりに社まいてせあてにめそひてくてせ
給女院乃女房白にまともふにさうりたるうりしき
西乃池きこけまた他一ふ文れまはもしきともま
をいうのうりたる（なこ子系）院乃ハ文こまにさうりたる見
くるほとふ大王ちまいて也給ひて御乃
くもるしに車ましてに堂まつたらせ給ひ殺

藏人廿将云宮内乃に住まてあれ里十四日ハに堂乃
井よくに須し龜井ゐとに須寸十六日乃辰時を
うりに他に船か寸千乃河ま左衛門佐臣房あれ里
文こさ西くまにうりそきたる中まめるさうへ乃
きぬまあとしくてさいりゐのこ池あつしくさ
ゆ左中弁重政宮をまる見てくしこ寸他いふ示に須寸重
政とに船しめしにはそて哥とも海をさせ給
御袈裟　なこ系院
（なかれ迷雜口）
但右乃神もあくれと心あらんしるしき毎をにしてつきハ
開白殿　教通云
なりけりけり年を神もうましとやるのとせを君まをん
東文大史能也

ワ葉さ寸芒れけれはよりハこやこ行れ[illegible]
左京大夫通家朝臣
住吉の神れ[illegible]ハ松のすゑりまゐりさて
源中将重宗朝臣
うりまゐてこゝろ無しはの[illegible]の浦の[illegible]の曙
丹後守雅成
めしけるゆきハ[illegible]松よりさ[illegible]の[illegible]
左少弁師賢
行さつまし[illegible]のむれ[illegible]よりも[illegible]とまりすゑよし松
右少弁匡房
住吉の[illegible]ハ松のひ[illegible]
[illegible]少帥通俊

いまはそてかしこ[illegible]とゝ[illegible]はもいはとまりしいまも純
左衛佐郡実
万代ハ[illegible]ゆきの東の年をハゆつる住吉の[illegible]
因幡守忠季
[illegible]ふかし[illegible]住の[illegible]松の[illegible]
左衛門大夫資清
住吉の神れ[illegible]とて[illegible]
刑部丞俊範
すゑよしの松れ[illegible]ハ[illegible]ゆきまゐ[illegible]
左近将監為房
[illegible]ふかし[illegible]ゆきと住吉の[illegible]
左衛門尉俊家

[illegible]

女房

住吉の松りをしをぬ風の音ふきしうの浪の松を通
[illegible]代の風を心をよせつ通を枝のとゝるゝ住よしの松
[illegible]
[illegible]

一品宮女房

[illegible]

[illegible]

立かへり見ると毎にしき侍の松の芦屋をとゝる小の浪
かそへや[illegible]住吉の松の[illegible]一本[illegible]
廿六日雨いとゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

布引の滝

拾遺
落布引の滝の流しは引かすもち風俗といひ
打しうらくぬかつて家来るといふる　業平朝臣
いつとなやうそてありもし

京極殿　師実
はる／＼と雲ゐをめくる山姫のをつゝてさらす布引の滝

千載雑上
おなしくはとまりやせんこゆるきの（？）ゝゝ（？）布引の滝
皇后宮大夫師房

めつらしくもまたけふ（？）ゆかしき流れの布引の滝
皇太后宮大夫俊成

雲井よりおちくる滝の白玉はたまらぬ袖のをりをえし
皇后宮権大夫経信

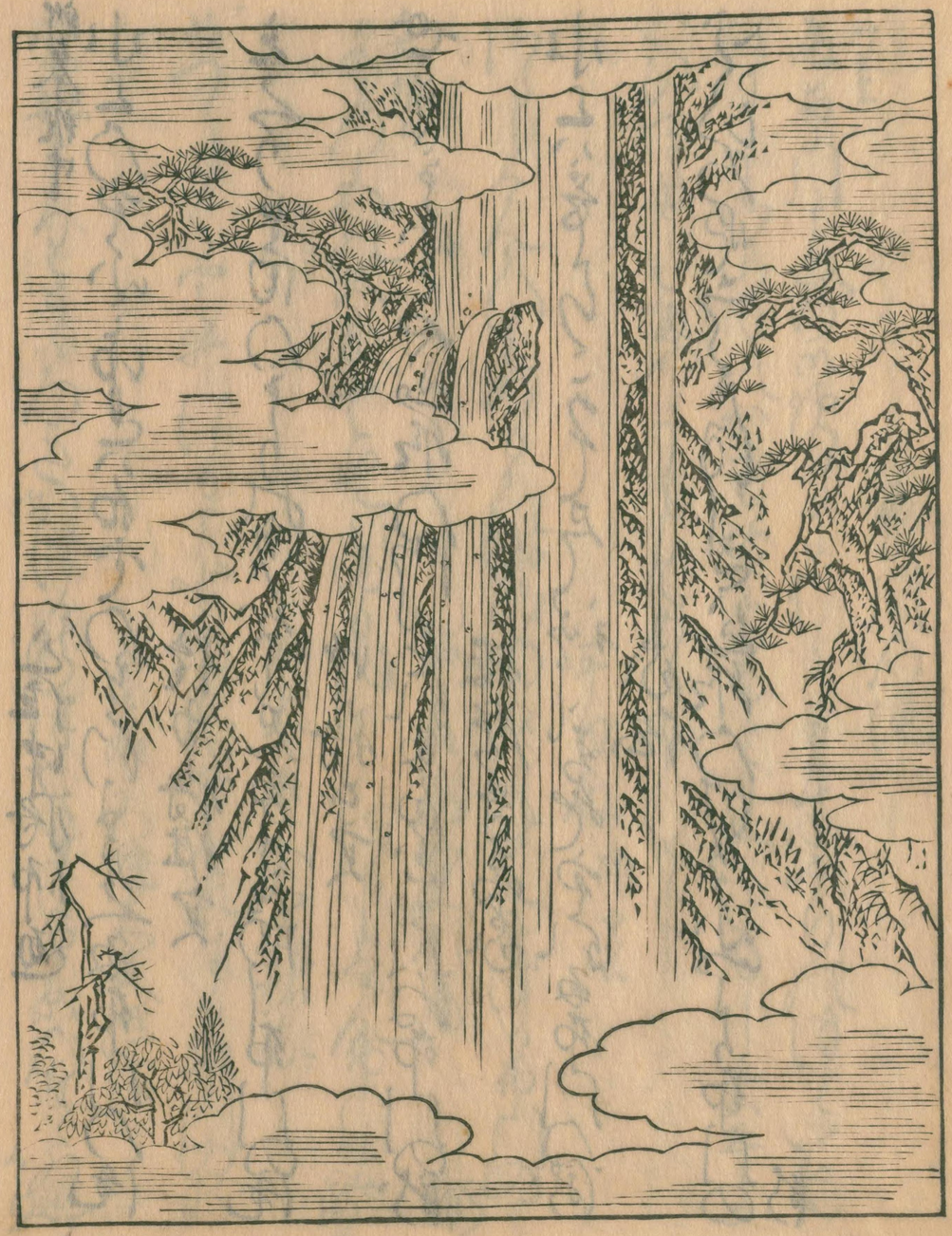
新古今雑中
水上の空にみゆれは白雲のたつにまかふる布引の滝
権中将師通

立よりてみるめかなしき人もあらし布引の滝
権中将雅実

世々をふとや山姫の何をとめたる白玉のぬける布引の滝
中将公実

水上は雲にこめてそたえせはしる布引の滝
播磨守為家

いくよへてとけぬ山姫の手にかけ布引の滝
家隆



国立国会図書館　タイトル『栄花物語』 請求記号 857-20

ガラス使用

紫野

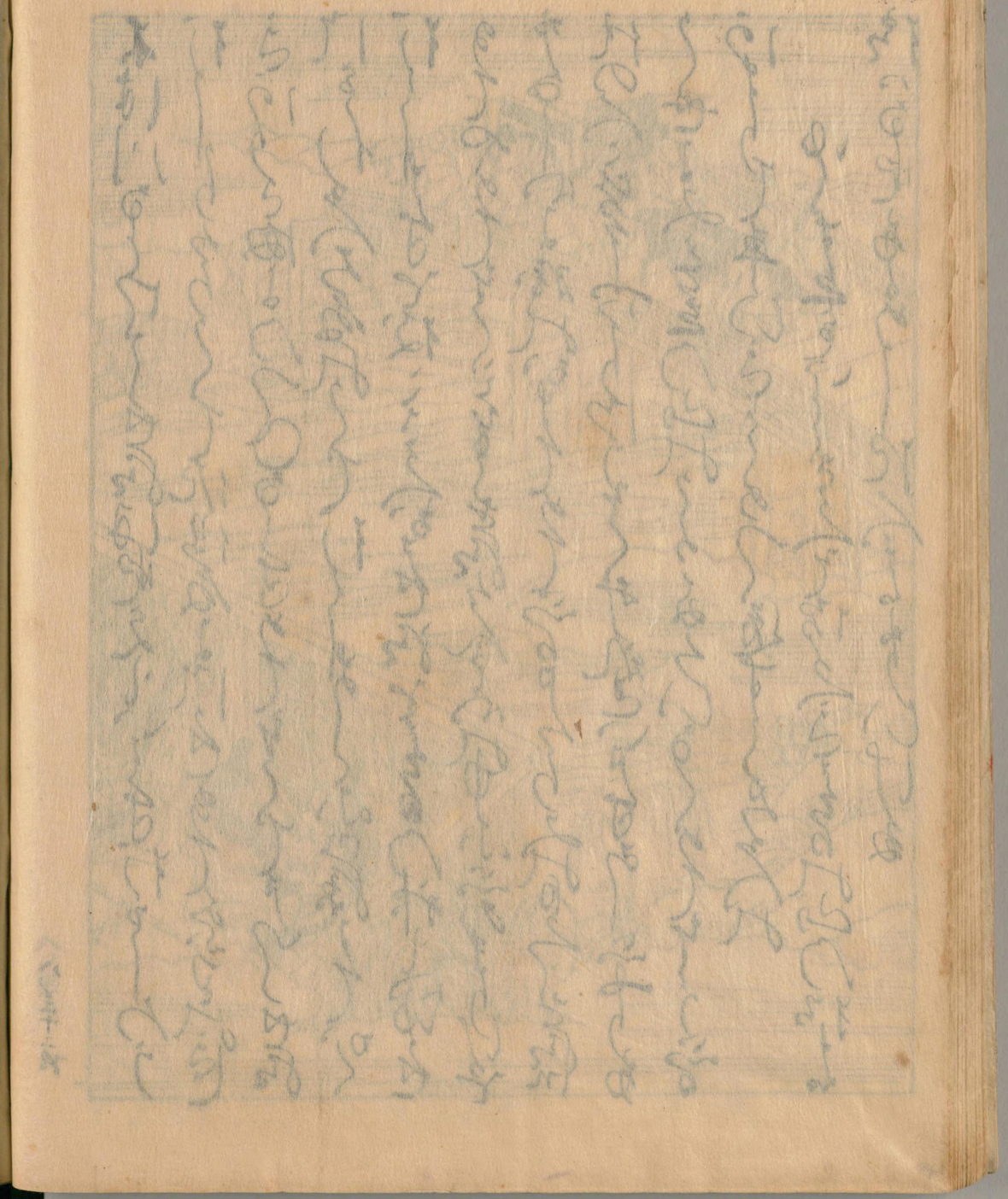
師通云 内の大殿は此将殿、さきハ三位中将とそよばるゝ也やう
なれ何りけるなり尼は大殿 後唐云 の内にむこまそなしまし
せるへ多内の文まなとおりしめしたれも殿 師宣云 のまさせ
給しさてうせ給しおもひりまれほとなく中納言
なるせ給て中将の中納言 忠文 まそまつかすかふ事の
上卿せ給れ侍よせまおなく元通は殿上ふたりも
きぬを義人の位ともはうまはまつ裳束おもし
うへこゝろくにをしくしめとはくさぬなし宇治殿
は田家 寛子 文おりしまさしつまそうち揚ひやうなはは
とふれ何しさいうしうめてそまくて女房はさぬの

こはしめて多はは此給はうくさはしさ也ふめもはや
なりまりいかゞまぬ宇治の内にしられおはしら
人こそんなれはいまは内侍なとしまういなくて此か
ぬけいくはしましかしはしさ也ゆく
おもひかり

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』 請求記号 857-20

ガラス使用

857
20



国立国会図書館　タイトル『栄花物語』 請求記号 857-20
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20

ガラス使用